

学習内容と到達目標

👉 調査の結果をまとめ、何が明らかになったのかを報告する。

指導のポイント

1. INTRODUCTION 第13課の復習。[5. SPEAKING] でした練習を再度行い、敬語や、インタビューの開始と終りの表現などが定着しているかどうか確認する。

2. SPEAKING グラフと表で示されたアンケート調査の結果について説明させる。その際、6課で学習した埋込疑問文が使えるかも確認するようにする。

例1. 平日、うちでどのくらい勉強するか聞きました。

例2. 塾に通っているかどうか聞きました。

3. LISTENING ここでは（[2. SPEAKING] で結果を示した）「勉強」と「コミュニケーション」以外の調査結果を報告しているので、CDを聞く前に、6課で山川さんが報告した「子供たちへの質問内容」を確認しておく。リスニングが弱い学習者の場合には、①の質問は後回しにし、数字の聞き取りから始めるとよい。

4. FOCUS 最初に補助動詞「お～する／ご～する」を使った謙譲語の作り方を練習し、その後で「いたす」や「申す」、「うかがう」などの敬語動詞を学習する。ある程度定着したと判断したら、④で2種類の謙譲表現がランダムに出てくるリスニング課題をやり、見てわかるだけでなく、聞いて理解できるかどうか確認する。さらに、⑤で（13課の復習も兼ねて）尊敬語と謙譲語がランダムに出てくるリスニング課題をやり、理解の確認と知識の整理を行う。そして、最後に⑥で（研究発表で多用される）「～させていただきます」の練習を行う。

5. COMPOSITION 調査結果の報告でよく使われる「_____たところ、_____が___%いました」と「_____たところ、_____ことがわかりました」という2つの文型を練習する。まず、①で [2.SPEAKING] の「勉強」に関するデータをもとに空欄を埋め、②で答えを確認する。2つの文型の使い方と意味を理解できたら、③で [2.SPEAKING] の「コミュニケーション」のデータを使って、結果報告の練習をする。この時、教科書を見ずに（「コミュニケーション」のデータだけを見て）報告できれば、なおよい。

6. LISTENING 「勉強時間の長さ」と就寝時間の遅さ、「親との対話時間」と好奇心・学習意欲の高さといった相関関係・因果関係を説明するための表現を学び、自分たちが行った調査の結果について分析できるようになることが目標。大学生なら（あるいは、これから大学で勉強しようという学生なら）ただ結果を報告するだけでなく、自分たちなりの分析も加えさせたいところ。

授業で使えるリソース

- ☞ 6課の冒頭でも紹介したように、トピック6（6課・13課・20課）で紹介したデータは、Benesse 教育研究開発センターが2004年に行った「第1回子ども生活実態基本調査報告書」から引用している。Benesse 教育研究開発センターはその後も様々な調査結果を会社のウェブサイトで公表しているので、日本の教育について議論する際、大いに参考になる（第2回、第3回の調査と比較して、子供たちの生活がどう変化しているかを調べるのも面白いのでは？）。この他にも、多くの企業・公的機関が様々な意識調査の結果をウェブサイト等で公表しているので、学生たちの興味・関心に合わせてそれらをうまく活用すれば、日本語と共に日本事情も学べ、広がりのある授業ができる。